

2025年の立秋は8月7日（木）です。

この日から暦の上では秋の始まりとされ、期間としては次の節気である「処暑」（8月23日）の前日までを指します。立秋は「夏が全盛期を迎え、秋の気配が徐々に立ち始める日」であり、毎年8月7～8日に当たります。

ちょうど夏至と秋分の間となる立秋は、まだ真夏ではあるもののわずかに秋の気配が感じられる時期です。



立秋と秋分はしばしば混同されますが、両者はまったく異なるものです。

「秋が立ち始める日」の立秋に対して、秋分を「秋の分かれ目となる日」と覚えるとわかりやすいでしょう。

【立秋】暦の上ではこの頃から秋の気配が感じられ秋風が吹くとされ、「秋の気配が立つ日」という意味で「立秋」と呼ばれます。立秋といっても夏真っ盛り、この頃から本格的な酷暑の時期になります。

この時期にお盆の行事を行う地域も多くあります。

お盆の正式名称は「盂蘭盆会（うらぼんえ）」です。

お釈迦様の弟子目連があの子で苦しむ亡き母を救うために、お釈迦様の教え通りに供養して成仏できたという逸話が由来です。

お盆には、ご先祖さまが迷わず帰ってこられる様に迎え火を焚き、最終日には送り火を焚いてお見送りをする「精霊送り」などを行います。

また、ご先祖の乗り物「精霊馬」を野菜で作ります。

ご先祖さまが早く帰ってこられるように、きゅうりで馬を作り迎えに行きます。

そして、ゆっくりと帰っていただくようにと、

茄子で牛を作りお見送りします。



『立秋や 旅止めまくと 思ふ間に』 小林一茶

意味：立秋が来たなあ。こんな旅は止めようと思っている間に秋が来てしまった。

「旅」について文字通りの旅か人生を旅と例えているかで解釈が変わってくる俳句です。人生であるという説を取ると秋という季節も単純な季節ではなく、人生の折り返し地点であると解釈できます。